

生きるということ

3年 武者香織

「バーン」ピストルが鳴り、私は全力で入り出しました。「前に前に、速く速く。誰よりも先頭を切って一番に…」そう自分に言い聞かせながら、私はハードルに向かいました。ゴールした瞬間、「あっ、入賞したんだ！」という実感が生まれました。7月23日に行われた、県中総体100mハードル決勝でのことです。

2年半前の3月11日——。あの日、私は体調不良で寝込んでいました。

ドドドドッ、と下から突き上げてくるような大きな揺れ。とっさに裸足で外に出ました。私と祖父母は庭に固まり、揺れが収まるのを待ちました。

キーンキーンと何か鉄パイプがこすれ合い、揺れと同時に鳴り出します。大きく、長く、今までに体験したことのないような揺れが私を襲いました。海に近い自宅の周りに人影はなく、自分たちだけが取り残されたように感じて、あまりの恐ろしさに足が震えていたことを覚えています。

あのとき兄が駆けつけてくれなければ、今私はこうしてここに立っていられなかったかもしれません。生きたくても生きられなかったたくさんの方々を目の当たりにして、私は「生きる意味」について考えるようになりました。

私は今、生きている。それは当たり前のように不思議なことです。私の父と母が出会い、私が生まれた。それは奇跡のようにも思われます。

谷川俊太郎さんの作品に「生きる」という詩があります。「生きていること」「泣けるということ」「笑えるということ」「怒れるということ」「自由ということ」「人は愛するということ」「すべての美しいものに会おうということ」という一節があります。

「生きる意味」を一瞬にして教えてくれた詩です。その一つひとつは当たり前のことだと思いますが、私の心に深くしみました。

「生きる」ことは本当に素敵であり、本当に素晴らしいことであり、何かを得ることだと思うのです。学ぶことができる。好きなことをたくさん経験することができる、同時に、嬉しさや楽しさ、悲しみ、苦しみを感じることができます。それらはすべて、生きているからこそだと思います。

私はハードルを跳んでいるとき、生きていると感じます。ライバルと競っている緊張感、風を切る心地よさ、前に進んでいるという実感。それらを全て楽しいと感じます。

ハードルを人生に置き換えて考えてみました。スタートラインから人生が始まり、生きていくうちに何かの壁にぶつかってそれを乗り越えるように、ハードルも前に走ればバーがあり、それを飛び越えてゆく…。何かに似ていると思うのです。

「夢だけは壊せなかった 大震災」。震災後に女川中学校の生徒が詠んだ俳句だと聞きました。私は両親から受け継いだ命を、間一髪で津波からまぬがれて生き延びることができた命を大切にしたいと思います。これからの人生の中でどんな人との出会いがあり、またどんな壁と出遭うのか。人との出会いをとおして成長していく自分の姿、壁を乗り越える自分の姿を想像しながら、これからも夢を握って放さずにハードルを跳び続けようと思っています。

平成25年度 亘理郡中学生弁論大会 最優秀賞